

大阪・関西万博における空飛ぶクルマの実現

①実施概要

博覧会協会や自治体、運航事業者、ポート運営事業者と連携して、大阪・関西万博において、遊覧飛行や二地点間移動など、空飛ぶクルマの活用と事業化を目指す。

(実施主体) 空飛ぶクルマ運航事業者、ポート運営事業者等

(実施場所) 会場内外 (モビリティエクスペリエンスエリア等)

(実施期間) 開催期間中



②今後の実施方針

博覧会協会・自治体・運航事業者等において行われる具体的な運航ルートや離着陸場所の選定に関する調整に協力する。

(経済産業省、国土交通省)

並行して、会場周辺における空飛ぶクルマ、ドローン、既存の航空機により安全かつ効率的な運航を実現するための運航管理技術の研究開発を進める。(経済産業省)

また、空飛ぶクルマの飛行に必要な機体の安全、操縦者の技能証明、離着陸場の設置等に関する制度整備や交通管理を行う体制整備等を進める。

(国土交通省)

③予算

【経済産業省】(次世代空モビリティの社会実装に向けた実現プロジェクト)

①令和5年度予算額：3,050百万円の内数

https://www.meti.go.jp/main/yosan/yosan_fy2023/pr/en/sangi_taka_05.pdf

【国土交通省】(空飛ぶクルマの社会実装に向けた環境整備)

②令和5年度予算額：379百万円

<https://www.mlit.go.jp/page/content/001580226.pdf> (P19)

④工程表



自動運転の一層の推進

連絡先 デジタル庁国民向けサービスグループ 03-4477-6775
 国土交通省自動車局技術・環境政策課 03-5253-8592
 国土交通省道路局 道路交通管理課ITS推進室 03-5253-8484
 警察庁交通局 03-3581-0141
 総務省総合通信基盤局 電波部移動通信課新世代移動通信システム推進室 03-5253-5896
 経済産業省製造産業局自動車課ITS・自動走行推進室 03-3501-1618

①実施概要

無人自動運転サービスの実現・本格化に向けて、高速道路における大型バスでの走行（50～60km/h）、運転者不在などの自動運転技術にチャレンジするとともに、大阪・関西万博において来場者輸送を担う一部のEVバスについて、下記の3つのルートでの自動運転走行（レベル4※）を実現する。

- (実施主体) 想定ルート①：京阪バス、阪急バス
 ②：調整中（P&Rバス事業者が実施予定）
 ③：Osaka Metro

(実施場所) 万博会場内外（想定ルート①～③）

(実施期間) 全会期中

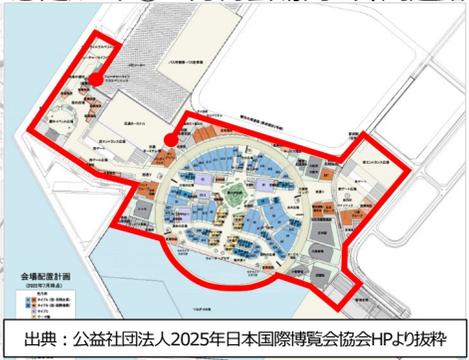
想定ルート①：新大阪駅・大阪駅ルート



想定ルート②：舞洲駐車場～万博会場



想定ルート③：万博会場内の外周道路



②今後の実施方針

- バス事業者を含めた関係者間で、下記の取組を具体化
 ・自動運転車両調達・改造・システム開発・実証実験
 ・必要なインフラの検討と整備にかかるスキーム等の調整

③予算

【国土交通省】令和4年度補正予算額：41,500百万円の内数
 令和5年度予算額：20,692百万円の内数

https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha07_hh_000452.html

※2025年にめざす自動運転レベルをレベル4とし、今後関係者間で安全面・技術面及び運用面で検討を進め、実現可能なレベルを決定していく

④工程表



環境省水・大気環境局自動車環境対策課 03-5521-8302
 国土交通省自動車局技術・環境政策課 03-5253-8592
 国土交通省自動車局旅客課 03-5253-8571
 国土交通省総合政策局地域交通課 03-5253-8396
 経済産業省製造産業局自動車課戦略企画室
 03-3501-1511(内線)3831~3836

日本のEVバスの技術・ノウハウ発信

①実施概要

モビリティの脱炭素化に向けた国際的なモメンタム醸成に貢献すべく、会場内外周バスや会場アクセスバスにおいて、日本の優れたEVバスを積極的に活用し、世界への技術・ノウハウの発信を行う。

(実施主体) バス運行事業者等

(実施場所) 会場内・外周バス
会場アクセスバス

(実施期間) 開催期間前から期間中まで

②今後の実施方針

必要規模のEVバスの導入支援、EMS×FMS（運行管理と一体となったエネルギーマネジメントシステム）、DWPT（走行中に利用可能な無線給電）の開発・実証を行うほか、国内メーカーによるEVバスの開発を後押しする。

③予算

【環境省】令和5年度予算額：500百万円

<https://www.env.go.jp/content/000097302.pdf>

【国土交通省】令和4年度補正予算額：79,822百万円の内数

<https://www.mlit.go.jp/page/content/001580237.pdf> (P6, 22)

令和5年度予算額：550,890百万円の内数

<https://www.mlit.go.jp/page/content/001580237.pdf> (P11,12)

【経済産業省（GI基金）】

令和2年度第3次補正予算額：2,000,000百万円の内数

https://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_101560.html



提供：関西電力・Osaka Metro

④工程表

2023年度

2024年度

2025年度

EVバスの導入支援
EMS×FMS、DWPTの開発・動作検証
国内メーカーによるEVバス開発の後押し

会場内・外周バス、会場アクセスバス
で日本のEVバス技術・ノウハウを
発信

MaaSの推進

連絡先 国土交通省総合政策局モビリティサービス推進課
03-5253-8980

①実施概要

関西地域において万博以降も利用可能なMaaSシステムを構築し、大阪・関西万博の来場者に対して、各種交通モードの予約・決済等のサービスをワンストップで提供する。

- (実施主体) 関西MaaS協議会 (※)
- (実施場所) 会場外
- (実施期間) 開催前から開催後

※大阪市高速電気軌道(株)、近鉄GHD(株)、京阪HD(株)、南海電気鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、阪急電鉄(株)、阪神電気鉄道(株)により構成(2022年11月8日 設立)。

②今後の実施方針

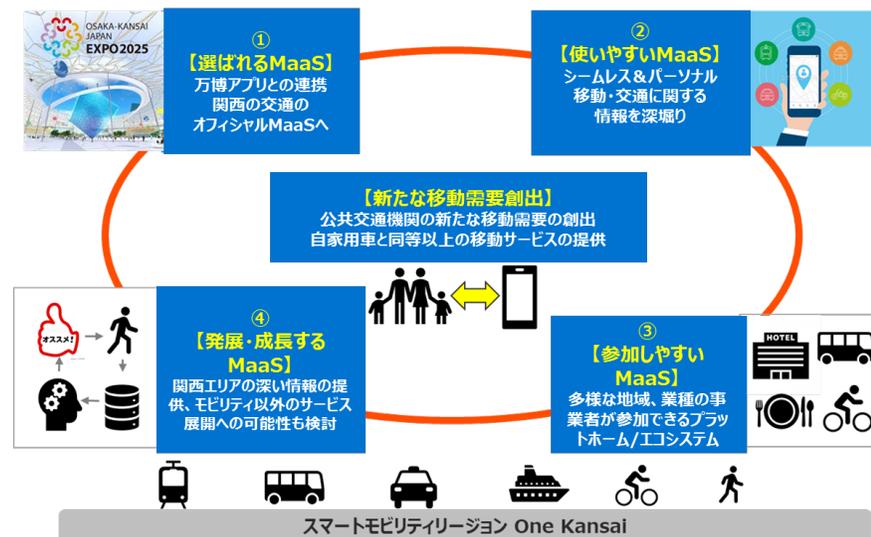
2023年夏を目途に関西MaaSアプリの運用を開始し、マルチモーダルの経路検索、電子チケットによる交通の企画乗車券や関西一円の観光施設入場券等の販売、観光/宿泊施設・モデルコース等の情報発信等のサービス提供を行う。

さらに、万博に向けては、2024年度以降、電子チケットの高度化、関西各地への周遊につながる観光コンテンツの充実等のサービス拡充を逐次実施するとともに、万博会場に接続する交通機関の予約等の機能を追加し、万博アプリを通じてそれらのサービスを受けることを可能とするなど、万博来場者の利便性向上に資する機能拡充を図る。

③予算

令和4年度補正予算額：41,500百万円の内数
令和5年度予算額：55百万円

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000193.html



④工程表

